

プロジェクト課題No.4

水稲乾田直播栽培技術の定着による 大規模土地利用型経営体の基盤強化



活動期間:令和6年度～令和7年度

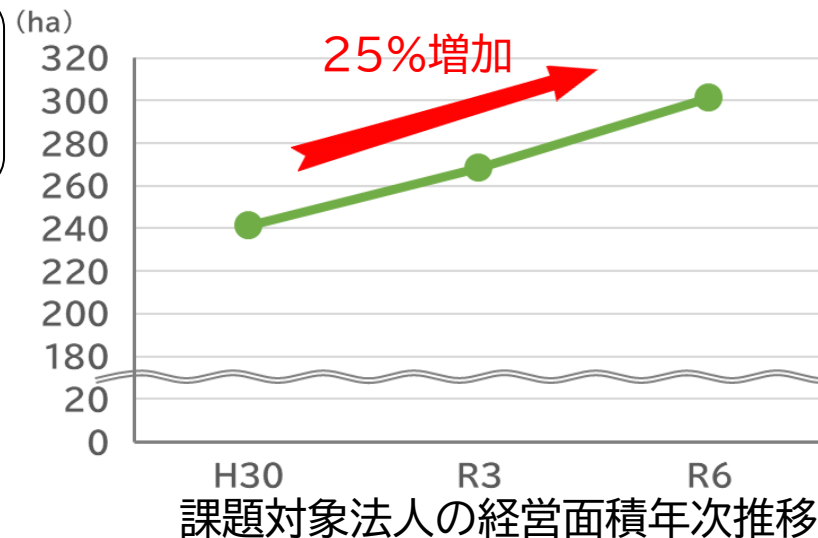
対象者:(有)ITO、(株)高橋グリーン、(農)アグリ今泉、(農)若木の里、みどりあーと山崎(株)

チーム員:八木沼湧太、大槻恵太、大越那津季

課題の背景・ねらい

- ・農地集積により経営面積拡大
 - ・限られた人員、時間での規模拡大に限界感
- ⇒**水稻栽培の省力化、効率化が喫緊の課題**
乾田直播栽培導入による解決を期待

育苗施設が足りない
田植えや育苗管理の
時間が足りない



【定性的目標】

- 移植栽培と同等収量を確保する技術の習得
- 労務負担軽減により、農地集積による経営面積拡大に対応
- アグリテック活用により、省力化や安定生産を可能に

乾田直播への理解促進
取組面積拡大可能に

【定量的目標】

- 対象5法人の乾田直播取組面積
R5(基準): 14ha → R6: 25ha → R7: 33ha

活動内容

○基本技術習得支援

- ・栽培管理助言、生育調査、巡回指導

○乾田直播導入による省力化確認

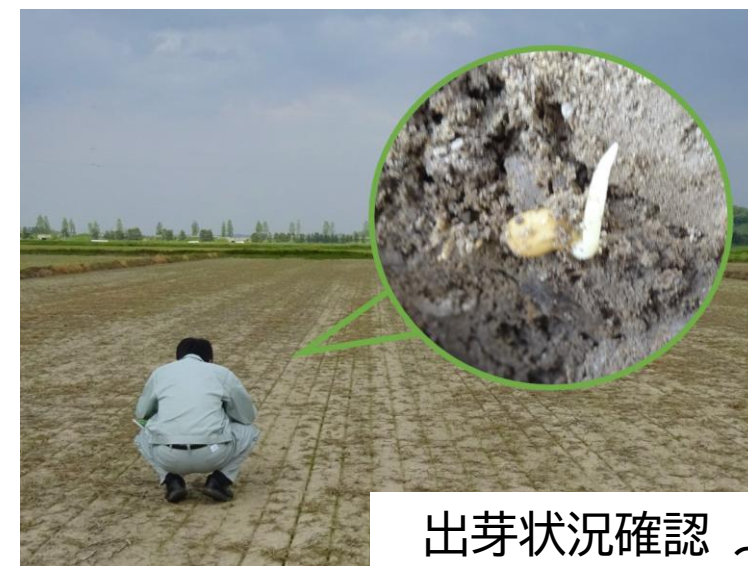
- ・作業体系と時間聞き取り、事例集作成

○アグリテックの効率的な活用支援

- ・アグリテック活用状況聞き取り、課題解決支援



播種作業



出芽状況確認

活動成果

○基本技術習得支援

- ・除草剤散布の時機や入水までを重点的に指導
- ・生育調査データにより、栽培管理を助言
- ・現地検討会(6月)や総合検討会(1月)、先進地視察(8月)を実施



- ・苗立数、出芽率などの向上
- ・播種後～入水前の雑草発生を抑制
- ・ほ場準備や除草体系など知識の深化

乾田直播導入拡大への意欲上昇



先進地視察



総合検討会

活動成果

○乾直導入による省力化確認

- ・各法人へ聞き取りを実施…
 - ▷ 移植作業がない3月中に実施可能
 - ▷ 育苗箱節減 (-2,000箱/10ha)
 - ▷ 播種作業 1時間/ha 2名で実施可能



- ・各経営体における様々な省力化の効果を確認
- ・作業体系と合わせて「事例集」として整理予定
- **取組み希望者や検討中の生産者への指導資料**

乾田直播 栽培概要

～2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月

○耕うん同時播種体系(スリップローラーシーダー)

播種様式別事例

○グレンドリル播種体系

メリット
 ・大豆や麦の機械を汎用できるためや大豆の輪作体系に適している。
 ・高速播種作業(6～8km/h)が可能。
 デメリット
 ・砂質や礫質土壌では、水はけが悪いため、導入は困難。
 ・ほ場が乾いていない場合、播種が困難。

○スリップローラーシーダーによる耕うん同時播種

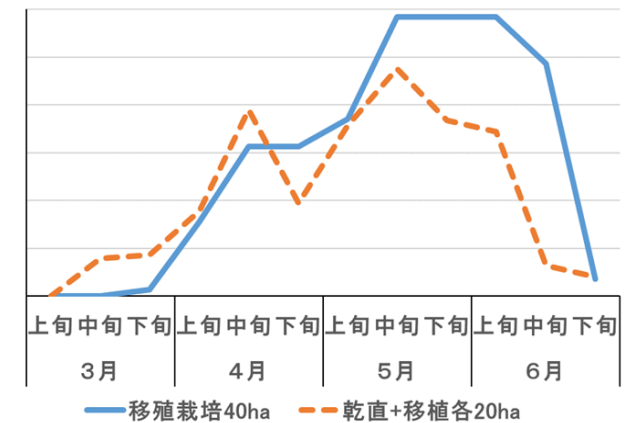
スリップローラーシーダーによる耕うん同時播種

ドリルシーダーによる播種

◆品種:ササニシキ ◆施肥:基肥:360kg/10a
 ◆収穫:480kg/10a
 ・播種前に降雨があったが、播種後は土表面が硬かった

◆品種:もえみのり
 ◆施肥:基肥:N-9.6kg/10a 追肥:尿素-硫安 1.5kg/10a
 ◆収穫:360kg/10a(参考値R6: kg/10a)
 ・播種後の鎮圧が実施できなかったが、苗立ち数は確保することができた。

事例集イメージ



水稲作付け40haの作業時間イメージ図

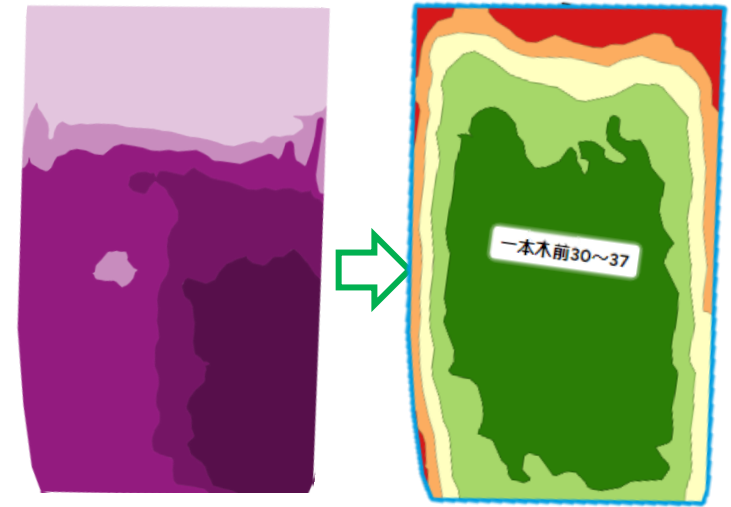
活動成果

○アグリテックの効果的な活用支援

- ①ITOへザルビオ活用支援
- ②若木の里へKSAS活用支援
- ③みどりあーと山崎へ水田ファーモの紹介



- ①可変施肥実施、若手従業員が積極的に活用
- ②計画的な営農管理
- ③水管理の省力化へ



可変施肥マップ
(施肥日4/15)

植生マップ
(8/13時点)

可変施肥の効果

圃場名	圃場ブロック	面積 (作付/圃場)	住所
■ 若木前93	若木前	30.1 a 30.1 a	
■ 若木前94-95	若木前	57.4 a 57.4 a	
■ 若木前96-97	若木前	57.4 a 57.4 a	
■ 若木前98-100	若木前	57.4 a 57.4 a	
■ 若木前102	若木前	57.3 a 57.3 a	
■ 若木前103-105	若木前	57.4 a 57.4 a	
■ 若木前106-107	若木前	57.4 a 57.4 a	
■ 若木前108-109	若木前	56.4 a 56.4 a	
■ 若木前110-115	若木前	30.5 a	

KSAS管理画面

活動成果

これらの取組により、栽培技術の向上及び省力化を実感、取組面積が拡大し、今後の経営面積も拡大可能に

【定量的目標】対象5法人の乾田直播取組面積

R5(基準): 14ha → R6: 25ha → R7: 33ha

《実績》 R6: 33ha → R7: 53ha (→ R8: 86ha予定)

【他生産者への波及として講習会を開催(2か年)】

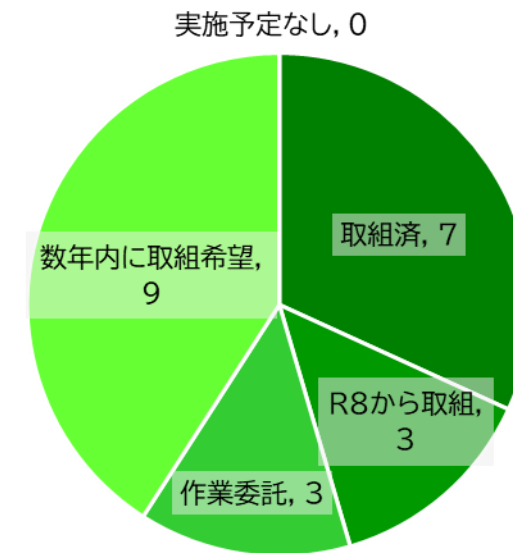


1月 乾田直播栽培講習会

認定農業者へ案内、JA新みやぎあさひな、
JA仙台管内から50名以上(R7)

【アンケート結果】有効回答数32(経営体数22)

- ・育苗数の減、省力化への期待
- ・機械の設備などは課題
- ・除草体系に不安を感じる生産者多い



Q. 乾田直播への取組状況・希望 6

令和8年度以降の対応

《重点課題》引続き乾田直播の取組みを支援を実施

○新規取組者等への支援

- ・2か年の活動内容を基に作成した事例集を配布
- ・技術支援や最適な播種様式等の助言

○スマート農業活用支援

- ・みどりあーと山崎へ水管理システムの設置、運用支援
- ・若木の里へKSAS活用支援(新規プロジェクト課題)